資料4-1

水道側の対応における課題

今般の水質事故を踏まえ、類似の水質事故の再発防止に向けた水道側の課題は以下のとおり。

（１）対応が必要な物質の抽出

通常の浄水操作で除去困難な物質が原水に大量に流入した場合、水道施設による対応には限界があることから、これらの物質の適切な管理を徹底する必要がある。このうち、浄水処理に伴って有害物質を生成する物質については、水道側が情報を整理し、関係者へ情報発信する必要がある。

具体的には、まず、今般の水質事故で問題となった生じたホルムアルデヒドの前駆物質について整理する。

（２）水質事故発生時の体制整備

通常の浄水操作で除去困難な物質が万一排出された場合には、取水停止等の措置を講ずるとともに、早期に原因を突き止めて新たな流出を止め、速やかに安心・快適な水の供給を確保することが重要である。

これまでも、通知やマニュアル等により監視体制の整備が進められてきたが、今般の事故を踏まえ、現在の流域単位の監視体制、協力体制の構築状況等について検証し、高度化する方策を検討する必要がある。

（３）水道施設における有害物質低減対策の推進等

水道施設における消毒副生成物の低減方策の対策の現状等を踏まえ、事故発生時においても安心・快適な給水の確保を図るため、今後の望ましい施設整備や管理のあり方等について検討する必要がある。